



日 鶏 協 ニ ュ ース

2025 年 11 月号
一般社団法人日本養鶏協会



INDEX

・今シーズンも鳥インフルエンザが 3 例発生しております！	1
・第 9 期 家畜防疫互助事業にご参加を！	2
・齋藤利明会長は、鈴木憲和農林水産大臣を表敬訪問しました	3
・農林水産省のアンケート調査にご協力ください！	4
・令和 7 年度 品目団体輸出力強化支援事業について	5
・地域活動報告	
①中部地域協議会 ②関東甲信越地域協議会 ③山梨県養鶏協会	6
・統計データ	9
・協会活動報告	10

今シーズンも鳥インフルエンザが 3 例発生しております！

飼養農場における異状の早期発見・早期通報と農場における発生予防対策を徹底してください！

今シーズン鳥インフルエンザの家きんでの北海道白老町、北海道恵庭市及び新潟県胎内市での発生を踏まえ、改めて、異状の早期発見・早期通報の徹底及び発生予防対策の徹底を強化し、本病の発生予防に万全を期すようお願いします。

○農林水産省「令和 7 年度 鳥インフルエンザに関する情報について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/r7_hpai_kokunai.html#2



第 9 期家畜防疫互助事業にご参加を！

申込受付中！

**各地域での鳥インフルエンザ発生前に、お早めにお申し込みください。
“単年度制”へ移行されておりますので、毎年度申し込みが必要です。**

令和 7 年 10 月 22 日（水）に北海道白老町の家さん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されました。

本事例は、今シーズン国内では初の家さんにおける高病原性鳥インフルエンザ確認事例となり、これに伴い環境省においても野鳥サーベイランスの全国対応レベルを同日付けで「対応レベル 3」に引き上げ、野鳥における監視を強化されました。

このように本年も鳥インフルエンザの発生リスクが高まる時期となってまいりました。この機会に第 9 期（令和 7 年度）家畜防疫互助基金支援事業（以下互助事業、注）参照）に未参加の方は、是非ご参加を検討頂くよう、改めてご案内致します。

特に令和 6 年度にご参加頂いた皆様のうち、令和 7 年度分の参加申込をまだ行っていない場合は、単年度制への移行に伴い、毎年度申し込みが必要となっておりますので、十分にご注意願います。

注）互助事業は、鳥インフルエンザが万一発生した場合に安心して経営を維持・継続ができるように、生産者が自ら積み立てを行い、発生農場が経営再開までに必要な経費等を相互に支援する仕組みに、国が補助する制度です。

日本養鶏協会では、お申し込みを随時受け付けておりますので、万が一に備え、是非、互助事業にご参加いただきますようお願い申し上げます。

○第 9 期家畜防疫互助事業

[04-パンフレット.indd](#)

【お問い合わせ】

業務第 1 部 Tel : 03-3297-5516



10 月 30 日、齋藤利明会長は、鈴木憲和農林水産大臣を表敬訪問しました

10 月 30 日、日本の畜産ネットワークは、鈴木憲和新農林水産大臣を表敬し、一般社団法人日本養鶏協会からは、齋藤利明会長が出席しました。表敬の場では、大臣御着任のお祝い表明の後、畜産業界全体の課題について意見交換をしました。

その他、日本酪農政治連盟柴田輝男委員長、全国肉牛事業協同組合尾熊将雄副理事長、一般社団法人日本養豚協会香川雅彦会長、一般社団法人日本食鳥協会佐藤実会長、公益社団法人日本食肉格付協会大野高志会長及び公益社団法人中央畜産会姫田尚副会長が出席しました。





農林水産省のアンケート調査にご協力ください！

畜産農家の皆様へ

水田政策の見直しにあたっての 飼料用米、WCS用稲、飼料作物の生産・利用に関するアンケート調査 へのご協力のお願い

調査目的

令和9年度以降の水田政策の見直しの検討にあたって、飼料用米、稲WCS（WCS用稲）（※）、飼料作物について生産・利用の状況や今後の意向を把握するためのアンケート調査を行います。現場の実情を踏まえた検討を行いたく、回答へのご協力をお願いいたします。

※稲WCS（WCS用稲）は出穂後、実が完熟する前に地上部（子実及び茎葉）を収穫し、乳酸発酵させたものを指します。

調査対象

- ・ 畜産農家（全畜種対象）：飼料用米、稲WCS、飼料作物の利用者
- ・ 水田活用の直接支払交付金（水活）を活用している飼料用米、WCS用稲、飼料作物の生産者
- ・ 再生協議会

調査方法 オンライン上のアンケート回答フォームから回答

回答〆切 **2025年10月31日（金）**

⇒ **2025年11月30日（日）**

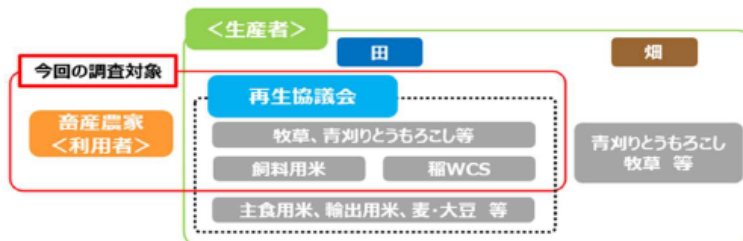
延長しました！

～注意事項～

様々な組織に周知を依頼しており、お手元に重複して同じ内容の回答依頼が届く可能性があります、ご了承ください。

水活を活用して飼料用米、WCS用稲、飼料作物を生産している畜産農家の皆様は、利用者向けの調査と生産者向けの調査両方にご協力をお願いいたします

調査対象	主な質問項目
飼料作物等の利用者 (畜産農家)	・ 飼料用米、稲WCS、飼料作物の利用状況や入手方法 ・ 各作物を利用する意義や今後の利用意向 ・ 飼料用米による畜産物のブランド化の状況 等 回答URL : https://www.net-research.jp/1287424/
飼料作物等の生産者 (耕種農家、畜産農家)	・ 水田での飼料用米、WCS用稲、飼料作物の作付状況 ・ 各作物を作付する意義 ・ 農地の条件や今後の生産意向、課題 等 回答URL : https://www.net-research.jp/1287939/
地域再生協議会	・ 地域内の飼料用米、WCS用稲、飼料作物の生産状況 ・ 各作物の地域への効果、課題 等 回答URL : https://www.net-research.jp/1287940/



＜お問い合わせ先＞ 農林水産省 飼料作物等の生産・利用の調査事務局
TEL:03-4221-0303 (10:00~17:00 ※土日祝日を除く) E-mail : info@feed-survey.jp

○飼料用米、稲WCS、飼料作物を利用する畜産農家向けアンケート

<https://www.net-research.jp/1287424/>

○水活を活用している飼料用米、WCS用稲、飼料作物の生産者向けアンケート

<https://www.net-research.jp/1287939/>



令和 7 年度 品目団体輸出力強化支援事業について

海外における販路開拓活動

～香港・マカオのフードサービス業界向け日本産凍結液卵プロモーションイベント

香港マーケットでの日本産鶏卵の更なるシェア拡大には、業務用での取り込みも必要となってくるもので、凍結液卵というキーワードで、今般プロモーションを 10 月 15 日、16 日に香港タウンガス・クッキングスタジオにて開催し、盛況のうちに終了しました。

香港マーケットだけではなく、香港と同一地域にあるマカオも一体にした取り組みを行うことで、マカオマーケットを香港の延長線上に一緒に取り込みを図っていくことを視野に、香港とマカオのフードサービス業界関係者（飲食店関係者、鶏卵・日本産食品ディストリビューター等）向けに香港において著名なシェフによる調理デモンストレーションを行いました。



このプロモーションでは、日本産凍結液卵の特長を理解できるように、シェフによる調理実演を行う傍ら凍結液卵の説明を行い、理解してもらい、また、それにあわせて参加者も実際に調理体験をし、試食することで、凍結液卵の利便性や味わいを実感してもらったことで、強く印象付けされました。

日本産凍結液卵の特長として、①日本産の高品質な鶏卵を割卵、殺菌し、使いやすい包装形態で提供され、②機能性（起泡性、調理適性など）を付与したものや、用途別（惣菜、外食）に特化したラインナップもあり、③省スペース、ごみ削減、容量、ハンドリング、衛生等、調理現場のソリューションになりえるものということを参加者に紹介しました。家賃や諸物価の高い地域であり、省スペースの観点も重要であり、参加者からは使っ



てみたいという意見があがりました。

なお、会場には、JETRO 香港市場開拓部の彦坂コーディネーターにも参画いただき、プロモーション参加者への日本産鶏卵普及にご協力、ご尽力いただきました。この場を借りまして、感謝申し上げます。

【お問い合わせ】 業務第 2 部 Tel : 03-3297-5508

養鶏協会 地域活動報告

①中部地域協議会 ②関東甲信越地域協議会 ③山梨県養鶏協会

**令和 7 年度日本養鶏協会中部地域協議会第 1 回研修会が開催され、
令和 6 年シーズの高病原性鳥インフルエンザ多発地域における
対策有効事例について講演が行われました。**

去る 10 月 23 日、日本養鶏協会中部地域協議会第 1 回研修会が静岡県御殿場市御殿場高原ホテルで開催され、行政、会員、会員傘下の養鶏家を含め 38 名が参集しました。

当研修会は、中部地域協議会の齋藤利明会長のあいさつで始まり、静岡県経済産業部農業局土屋聖子畜産振興課長等より挨拶があり、その後静岡県経済産業部農業局畜産振興課中村大樹主任から「静岡県内における畜産情勢について」、また日本養鶏協会から「鶏卵産業を取巻く情勢と今後について」資料に沿って説明がなされました。

次に、(有)花井養鶏場 花井千治社長より当日のメインにあたる記念講演「常滑農場事例（令和 7 年 1 月 2 日から 31 日に渡り）」が行われました。令和 6 年シーズンに近隣農場で高病原性鳥インフルエンザが多数発生するなかで同農場では発生を回避したが、どのような対策・工夫を重ねたか実例に基づき詳しい講演がなされた後に活発な質疑・応答がなされ、令和 7 年シーズを前に参加者の関心は極めて高く、大変有意義な研修会となりました。





令和 7 年度日本養鶏協会関東甲信越地域協議会養鶏研究大会が開催され、 関係者約 340 人が参集し、 HPAI 発生予防及び蔓延防止対策等について議論されました！

去る 10 月 7 日、日本養鶏協会関東甲信越地域協議会養鶏研究大会が、千葉県千葉市京成ホテルミラマールにおいて開催され、行政、養鶏家、関係企業を含め、約 340 人が参集しました。

当大会は、関東甲信越地域協議会の元木隆行会長のあいさつで始まり、来賓である千葉県高橋輝子農林水産部長等より挨拶があり、その後、今日の人材不足を踏まえ、エフピコダックス株式会社の岩井久美代表取締役より「エフピコにおける障害者雇用の取り組み」についての講演と、令和 6 年シーズンに発生した HPAI を踏まえ、「養鶏場密集地域における連続発生を考える」とした座談会が開催されました。

なお、座談会では、株式会社ピーピーキューシーの白田一敏代表取締役による進行のもと、マルイ農業協同組合成瀬弘和生産事業部生産課長及び被災を受けた千葉県農業協会養鶏部会に所属する農事組合法人宮澤農産の宮澤哲雄代表理事、株式会社 JGF 木下稔朗氏、有限会社九十九里ファーム林共和代表取締役が各々の実体験を踏まえ、HPAI 対応の今後の課題について意見交換を行いました。

その後、HPAI 発生予防及び蔓延防止対策として、「①生産者自らの意思により、農場内における異常鶏の早期発見のための仕組みを構築し、早期通報ができるよう、より一層努めるものとする（生産者の努力）。②死体の埋却は、地権者等の同意の取得や地下水位の高さ等により埋却可能な土地の確保が難しく、その後の利用も制限されることから焼却を前提とした処分を進められたい（要望）。③汚染物品である鶏卵及び飼料を堆肥に混入させる「封じ込め」は、焼・埋却に代わる 実行しやすい有効な手段であることから、手当金交付の対象とされたい（要望）。④予防ワクチンの利用が可能となるよう、研究開発及び法の整備を早急に進められたい（要望）。併せて、生産者も自ら勉強し、理解を深めることとしたい（生産者の努力）。」との大会宣言を行い、盛会のうちに養鶏研究大会が終了しました。



第 53 回 山梨県肉畜鶏卵共進会が開催されました

第 53 回山梨県肉畜鶏卵共進会が開催されました。共進会は、品質の優れた肉畜および鶏卵の生産を推進することにより、食肉消費の促進、畜産農家の経営意欲の高揚、並びに安定的な畜産経営の確立を図り、もって山梨県畜産の振興に寄与することを目的に実施するものです。

鶏卵の部では、山梨県内で生産された 11 点が出品され、箱詰め方法、重量検査、外観審査、割卵検査が実施され、令和 7 年 10 月 1 日（水）、山梨県防災新館において優秀な出品に対する褒賞式が開催されました。

当日は金賞を受賞された高野善智氏に、山梨県養鶏協会の伊藤理事から賞状とトロフィーが授与されました。当協会は、後援団体として、賞状及び副賞を交付しました。

今後とも、当協会は道府県養鶏協会が開催するイベント等を通じ、鶏卵の普及啓発への取り組み推進を目的に、後援等の取り組みを進めてまいります。



日鶏協ニュースでは
地域協議会・道府県養鶏協会の活動報告を募集しております！

【お問い合わせ先】 総務部 Tel:03-3297-5515
業務第一部 Tel:03-3297-5516

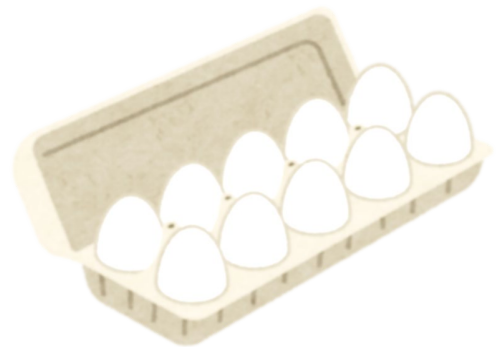


統計データ

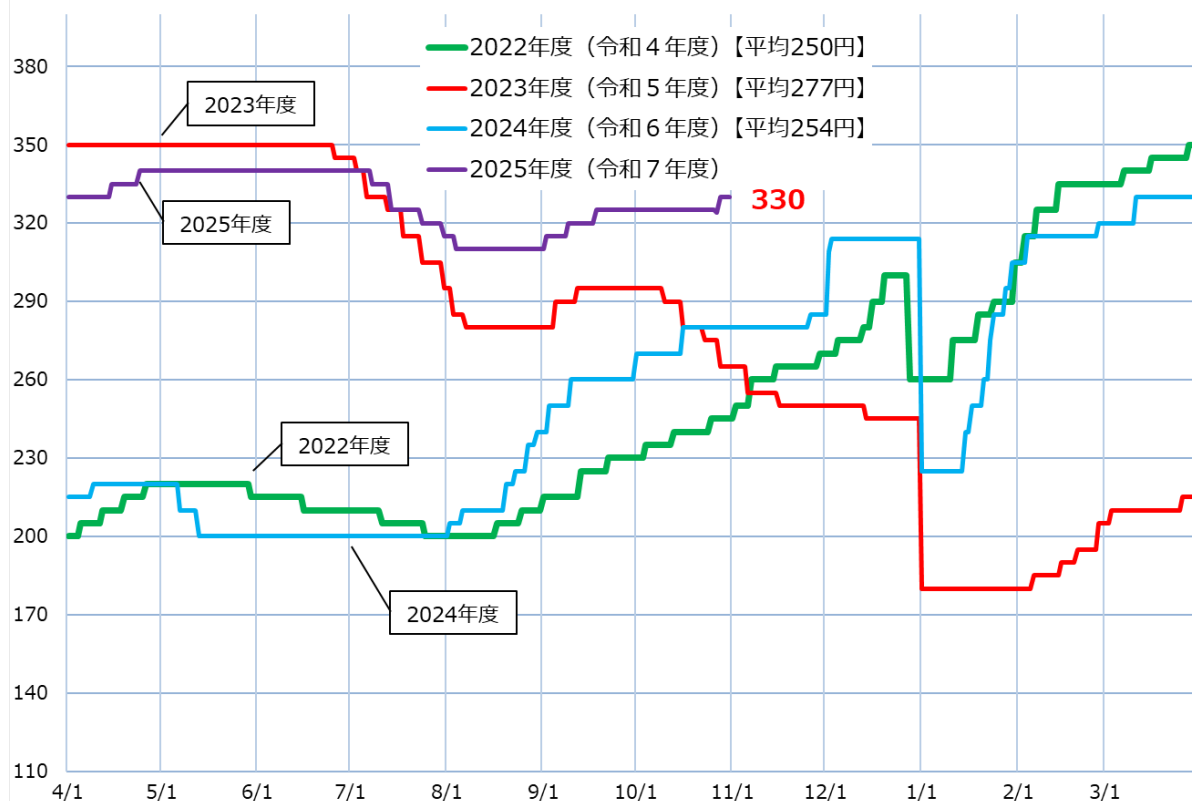
鶏卵相場動向 — 過去 10 年間の 10 月相場 東京全農Mサイズ 円/ kg

	平均値	高値	安値
平成28年	211	233	194
平成29年	211	243	191
平成30年	194	213	184
令和元年	204	228	194
令和2年	164	185	154
令和3年	213	240	199
令和4年	239	267	224
令和5年	283	319	259
令和6年	275	304	264
令和7年	326	355	319
平均値	232	259	218

令和 7 年 10 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）の高値 355 円は、過去 10 年の平均値 259 円を 96 円上回り、安値 319 円は、過去 10 年の平均値 218 円を 101 円上回っています。



鶏卵相場推移 2022 年度～2025 年度 東京全農Mサイズ 円/ kg



鶏卵相場は 9 月末から価格が上がり、10 月末では 3 3 0 円になりました。



鶏卵関係主要計数 —— 令和 7 年 8 月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
9月	7,346	91.2%	426	98.9%	885	104.2%	292	256
10月	8,473	96.3%	484	105.0%	902	101.2%	283	275
11月	7,429	85.7%	471	99.9%	887	101.2%	254	281
12月	8,931	93.2%	510	100.4%	970	102.1%	247	290
7年 1月	8,099	107.3%	460	100.1%	897	99.9%	180	258
2月	8,402	110.1%	432	94.5%	860	96.6%	190	315
3月	8,856	106.4%	468	99.9%	932	100.4%	211	327
4月	8,482	102.4%	473	99.4%	905	103.3%	219	334
5月	8,985	111.7%	470	98.2%	920	98.2%	204	340
6月	7,993	99.2%	441	100.6%	880	97.2%	200	340
7月	9,183	107.5%	453	100.5%	899	107.4%	200	329
8月	7,793	100.1%	426	98.3%	871	100.8%	217	310
1年間合計 平均(%)	99,972	100.9%	5,514	99.6%	10,808	101.0%	225(平均)	305(平均)

- ・雛餌付羽数は、7,793 千羽（前年比 100.1%）となりました。
- ・配合飼料出荷量は、426 千トン（前年比 98.3%）となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、871 グラム（前年比 100.8%）となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の 93 円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和 4 年度	1,794,699
令和 5 年度	1,731,712
令和 6 年度	1,824,242
令和 7 年度	1,784,201

② 標準取引価格

令和 7 年 10 月 328.78 円/kg

③ 令和 7 年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 230 円/kg

安定基準価格 207 円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 16 号 馬事畜産会館内（5 階）

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2025 年 11 月 5 日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)